



NPO PTPL “ともいき” 便り No.95

平成 28 年 (2016 年) 3 月 5 日発行

■啓蟄 (けいちつ) 3 月 5 日から 3 月 19 日までの節気

啓蟄の文字を分けると、「啓」は開く、「蟄」は虫が冬ごもりをするという意味です。土の中で冬を越してきた虫たちが、太陽の暖かさを感じて姿を現すころ。ナズナやハコベ、タンポポ・・・散歩道に春の気配！木の芽もぷっくりとふくらみ始める時季です。

◎ 事務所から 7~8 分歩くと、日比谷公園があります。久しぶりに昼間散策に出かけました。まだまだ春の花が咲き乱れるというところまでいきませんが、ところどころにスマレや菜の花が咲き、春を少し感じさせてくれます。

この日は多くの人々がベンチに腰掛け、お弁当をひろげたり、本を読んだり、写生をしたりと、各人それぞれ春の暖かな日差しを楽しんでいました。

◎3 月 10 日は「東京都平和の日」です。

昭和 20 年 (1945 年) 3 月 10 日未明、アメリカ空軍の B29 爆撃機、おおよそ 300 機によって東京都内が大空襲を受けました。死者は約 10 万人、消失家屋は約 25 万戸におよび、特に、東京の下町一帯が焦土と化しました。

東京都は、この日を忘れないため、戦争の惨禍を繰り返さないことを誓って、都民一人ひとりが平和を考える日として 1990 年に、3 月 10 日を「東京都平和の日」と決めました。

以前、この日に墨田区役所に行ったことがあります。墨田区役所では「墨田区平和福祉都市づくり宣言」に基づき、毎年東京大空襲のあった 3 月に、平和祈念行事を開催しています。多くの方々から寄せられた折り鶴で制作した「平和のオブジェ」がお披露目され、「平和コンサート (3 月 10 日)」や「平和メッセージ展 (3 月 10 日~20 日)」が開催されます。

今、幸せに生きていることは、この多くの非戦闘員の方々の犠牲の上に成り立っていることを、いまを生きる私たちは忘れてはなりませんね。

◎3 月 11 日は「東日本大震災発災の日」です。

平成 23 年 (2011 年) の 3 月 11 日、14 時 46 分に、宮城県沖の海底で発生した東北地方太平洋沖地震とその地震によって発生した津波によって東北地方

から関東北部の大平洋沿岸部に壊滅的な被害がもたらされました。地震の規模はマグニチュード9.0とされ、この時までの日本観測史上最大の地震です。この震災による死者・行方不明者はあわせて1万9千人以上、建物は全壊・半壊あわせて38万戸以上といわれています。

早いもので、あれから5年が経ちます。「東京大空襲」「東日本大震災」、どちらも未曾有の大惨事です。多くの人々が亡くなり、被害も甚大で発生直後、被災者はとても悲嘆にくれたことでしょう。

しかし、日本人の心はしなやかで、人々は思いやり、いたわり、助け合い、支え合い、さらに勤勉にこの難事を乗り越え、また乗り越えようとしています。この日本人の心は世界中の人々に驚きと感動を与えています。

東日本大震災の復興はまだ道半ばですが、日本人の心と先人から受け継がれた知恵とたゆまぬ努力によって、見事に復興すると確信しています。

そのためにも、私たちは3月11日だけでなく、絶えずこの日を忘れず、ひとりひとりが身の丈にあった支援を継続していくことが必要だと思います。

話題を変えて、啓蟄の節気の行事などをご紹介します。

◎奈良東大寺二月堂のお水取りが3月12日に行われます。

この日は本尊に供える霊水で若狭井(わかさい)から汲み取る「お水取り」と、僧が二月堂の回廊で大松明(全長6メートルほどの巨大なもの)を振り回す「おたいまつ」が行われます。

火粉をかぶると幸せになれるとされ、多くの人々で賑わいます。

このお水取りが終わると、奈良に春が訪れるといわれるほど古くから奈良の人々に親しまれている行事です。翌日は奈良春日大社の春日祭です。

詳しくは「ともいき暦」をご覧ください。

<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

奈良は多くの人々が訪れ、古都の仲春を満喫することでしょう。

◎3月17日は雑節の「彼岸の入りです」。

この頃には、「こぶし」や「もくれん」が咲き、桜の開花も間近になり、春の気がみなぎってきます。

ここ数日、朝晩は冬の寒さ、昼間は春の陽気と一日に冬と春が同居する感じがです。インフルエンザも流行っている様子なので、お気をつけ下さい。

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局)

■ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼是

◎「日本人の心の内に、神も仏も在る」

日本人は宗教をもたない、無宗教であるとよく外国人から言われたり、自分でもそう思ったりしています。

しかし、日本には、神仏共存、神仏習合の、一神教とは異なる「生活宗教」とも言えるものが厳然とあると私は考えます。

神道、仏教の教えを基層として、長い年月をかけ、広く深く、老若男女はいうに及ばず、生活の隅々にいたるまで、それは浸透し、「日本人の心の内に、神も仏も在る」という現象が生まれたのです。

この現象は、日本語にも多大な影響を与え、日本語には、日本人の倫理道徳観、生活の知恵、美意識などすべて埋め込まれています。

昨今、日本人ということからかけ離れた日本人が多くなっていますが、現在でもそれは生き活きと息づいています。

そのようなうちに自信をもって、それを取り戻すことが大切なのではないのでしょうか。

そして、私たち日本人の自然を畏れ神仏を敬う心を改めて蘇らせ、「和み」の心をもとに、「ともいき」「ともうみ」「ともさち」を旨として生きるように努めるべきではないのでしょうか。

◎日本人の心の花。

家の近くの公園で、2月はじめに咲き始めた河津桜、今が満開です。

まだ寒い北風の中で咲き始めた、サクラの花を見ると、一種の勇氣、元氣を与えられた思いがして、ホノボノとした気分になります。これが私にとっての「初花」でした。(その年になってはじめて目に触れたサクラの花を「初花」といいます。)

公園にいる人びと、道路を歩いている人びとが、目をとめ、足を止め、ひっきりなしに樹下で撮影をしています。さすがにサクラは日本人の心の花ですね。

3月末のソメイヨシノの開花とともに日本の至るところが桜の名所になります。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局だより

●「ひらがな」と「カタカナ」の成り立ち。

昨今、ユーチューブやニコニコ動画では地上波では聞けない話題の番組が多く放映されています。その中の番組内で「ひらがな」の成り立ちの話を聞く機会がありました。「ひらがな」は漢字がベースになっていて、漢字の字体を簡略化したものと言われています。

例として、「安→あ」、「以→い」、「宇→う」、「衣→え」、「於→お」等々。

「カタカナ」も同様に、漢字がベースですが漢字の字体の一部をくずしたもののようです。

「ひらがな」と「カタカナ」を編み出した日本人の知恵はとても素晴らしいですね。「ひらがな」と「カタカナ」によって、いかに日本語が、美しく、流れのある表現豊かな言葉だと実感できます。

●会員募集のご案内

NPO 活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAXにてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@ptpl.or.jp